

東海北陸厚生局長 殿

国立大学法人 富山大学附属病院長
井上 十

国立大学法人 富山大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき平成23年度の業務に関して報告します。

記

- 1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3. 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	94人
--------	-----

 (注)前年度の研修医の実績を記入すること
- 4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	274人	36人	293.4人	看護補助者	32人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	11人	1人	11.2人	理学療法士	4人	臨床検査技師	36人
薬剤師	30人	0人	30.0人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助産師	29人	0人	29.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	559人	18人	573.4人	臨床工学士	11人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	0人	その他の技術員	40人
歯科衛生士	2人	0人	2.0人	歯科技工士	0人	事務職員	119人
管理栄養士	6人	0人	6.0人	診療放射線技師	31人	その他の職員	0人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3. 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たりの平均入院患者数	500.9人	10.4人	511.3人
1日当たりの平均外来患者数	1,210.7人	46.2人	1,256.9人
1日当たりの平均調剤数			1,138.8剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱い患者数

先進医療の種類	取扱患者数
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	1 人
インプラント義歯	4 人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定(24.7受理)	- 人
前眼部三次元画像解析(24.8受理)	- 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱い患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	心房細動のカテーテル・アブレーション	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要			
抗不整脈薬によっても発作を抑制できない有症候性心房細動に対して、根治術として高周波エネルギーを用いたアブレーションを行っている。			
医療技術名	心不全・虚血性心疾患に対する温和療法	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要			
薬剤治療抵抗性の心不全や狭心症例に対して、心機能改善・QOLや運動耐容能改善を図るため、全身の温熱療法(和温療法)を行っている。			
医療技術名	重症食物アレルギーに対する急速経口免疫療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
微量の摂取でもアナフィラキシー反応を呈する程の重症食物アレルギーに対して、計画的に原因食物を摂取させ、減感作状態、さらに耐性獲得に至ることを目的とした治療。			
医療技術名	重症胎便吸引症候群に対する体外膜型人工肺治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
重症胎便吸引症候群の新生児に上大静脈から右心房にかけてカテーテルを挿入し、体外膜型人工肺を装着。			
医療技術名	新生児肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
著しい肺高血圧症にて呼吸不全に陥った児に、一酸化窒素吸入治療を行い、症状改善した。			
医療技術名	頸部頸動脈血管形成・ステント術: CAS	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要			
脳血管内治療による頸動脈狭窄症に対する頸動脈形成術である。			
医療技術名	ステント併用脳動脈瘤塞栓術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
頸部の広い動脈瘤に対する頭蓋内ステント(Enterprise VRD)を使用したコイル塞栓術。			
医療技術名	巨大脳動脈瘤治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
通常治療が困難な巨大脳動脈瘤に対する外科手術、脳血管内治療を複合させた治療。			

医療技術名	脳動静脈奇形塞栓術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
脳動静脈奇形摘出術前に行う塞栓術。			
医療技術名	硬膜動静脈瘻に対する脳血管内手術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要			
硬膜動静脈瘻料に対する経動脈的、あるいは静脈的塞栓術。			
医療技術名	脳深部刺激療法	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要			
パーキンソン病に対して脳深部刺激を行う定位脳手術(機能外科手術)。			
医療技術名	経鼻的下垂体腫瘍摘出術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
鼻腔経由で神経内視鏡を使用し下垂体腫瘍を摘出する。			
医療技術名	神経内視鏡による水頭症手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
神経内視鏡を使用した水頭症に対する脳室穿破術。			
医療技術名	ナビゲーション支援による脳腫瘍手術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
MRIを基に構成した術中ナビゲーションシステムを使用した脳腫瘍の摘出手術。			
医療技術名	難治性緑内障におけるインプラント手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
難治性緑内障に対して眼圧下降を効果的に得るためにインプラント手術で眼圧下降を図る。			
医療技術名	乾燥羊膜を用いた難治性角膜疾患の治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
当院で独自に作成したヒト乾燥羊膜を用いて角膜穿孔、緑内障術後に対し、効果的な治療をしている。			
医療技術名	近視性血管新生黄斑症に対する抗VEGF療法	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
強度近視に伴う血管新生黄斑症に対して抗VEGF療法を眼内注射し、より効果的な治療を行う。			

医療技術名	黄斑浮腫に対する抗VEGF療法	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要			
網膜血管障害に伴う黄斑浮腫は視力障害の大きな原因でありその黄斑浮腫に対して抗VEGF療法の眼内注射で治療する。			
医療技術名	角膜内皮移植(DSAEK)と角膜移植	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
重症角膜疾患に対して角膜移植術を行う。症例に応じてより視力改善効果の高い角膜内皮移植術を行う。			
医療技術名	中耳加圧療法による難治性内リンパ水腫疾患治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要			
携帯型中耳加圧治療器Meniettならびに鼓膜マッサージ機を用いて、保存的治療に抵抗してめまい発作を反復する遅発性内リンパ水腫疾患患者の治療を行っている。			
医療技術名	hyperdry乾燥羊膜を用いた中耳手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
自家移植材料である側頭筋筋膜の代わりにhyperdry乾燥羊膜を用いて鼓室形成術を行っている。			
医療技術名	ナビゲーション用CT撮影	取扱患者数	305人
当該医療技術の概要			
脳神経外科領域にて腫瘍・血管位置や危険部位の認識をサポートする目的で行われ、整形外科分野では骨に対する器具位置の表示などに応用される。この基準となるデータをX線CT装置で撮影する。耳鼻咽喉科、口腔外科、美容外科へ適用が拡大している。			
医療技術名	X線CT-Angio撮影	取扱患者数	655人
当該医療技術の概要			
造影剤を急速静注したのち、動脈内の造影剤濃度が最も高くなるタイミング(動脈相)でCT撮影し、画像処理することで動脈が明確に抽出され、3D表示も可能となります。脳脈瘤、腹部大動脈瘤の診断に利用されている。			
医療技術名	PET(ボジトロン断層法)	取扱患者数	908人
当該医療技術の概要			
陽電子検出を利用したコンピューター断層撮影技術である。X線CTが主に組織の形態を観察するための検査法であるのに対して、生体の機能を観察することに特化した検査法である。腫瘍組織における糖代謝レベルの上昇を検出することにより癌の診断に利用する。			
医療技術名	直線加速器定位放射線治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
定位放射線照射とは病巣に対し多方向から放射線を集中させる照射方法です。脳定位放射線治療、肺定位放射線治療を実施している。			
医療技術名	強度変調放射線治療(IMRT)	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要			
強度変調放射線治療とは腫瘍の形状に合わせた線量分布を形成でき、正常組織の被ばく線量をより低減できる放射線治療の照射技術である。			

医療技術名	遊離組織移植による即時再建術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
<p>口腔腫瘍切除時、欠損部位に対して遊離組織移植を行う。</p>			
医療技術名	乾燥羊膜を用いた口蓋形成術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
<p>口蓋部のlow surfaceに乾燥羊膜を用いて、術後の摂食痛の軽減と早期上皮化を促す。</p>			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	33人	・膿疱性乾癬	1人
・多発性硬化症	51人	・広範脊柱管狭窄症	8人
・重症筋無力症	32人	・原発性胆汁性肝硬変	34人
・全身性エリテマトーデス	133人	・重症急性膵炎	2人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	19人
・再生不良性貧血	6人	・混合性結合組織病	24人
・サルコイドーシス	32人	・原発性免疫不全症候群	6人
・筋萎縮性側索硬化症	16人	・特発性間質性肺炎	12人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	93人	・網膜色素変性症	57人
・特発性血小板減少性紫斑病	17人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	21人	・肺動脈性肺高血圧症	5人
・潰瘍性大腸炎	96人	・神経線維腫症	11人
・大動脈炎症候群	13人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	14人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	12人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	3人
・脊髄小脳変性症	43人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・クローン病	59人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	22人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患	166人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	1人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	7人
・後縦靭帯骨化症	35人	・肥大型心筋症	4人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	16人	・ミトコンドリア病	6人
・ウェゲナー肉芽腫症	6人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	41人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症	22人	・黄色靭帯骨化症	8人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害	36人
		合計	1231人

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	心不全の心腎連関における自律神経機能の概日リズム異常に関する研究	井上 博	内科学(第二)	2,800,000 円	日本学術振興会
2	消化器癌幹細胞と微小環境との相互作用に関する治療標的マイクロボ核酸の探索	奥村 知之	外科学(消化器・腫瘍・総)	1,700,000 円	日本学術振興会
3	脊椎椎間板疾患の病態解明に立脚した新規治療法の確立	関 庄二	整形外科・運動器病学	900,000 円	日本学術振興会
4	脂肪組織M1、M2マクロファージによるインスリン抵抗性の制御についての研究	戸邊 一之	内科学(第一)	400,000 円	日本学術振興会
5	低酸素適応応答機構における和漢薬の標的分子と病態変化の解析	後藤 博三	和漢診療学	1,000,000 円	日本学術振興会
6	精神疾患における脳形態変化の疾患特異性に関する研究	高橋 努	神経精神医学	600,000 円	日本学術振興会
7	ライブイメージング法を用いた間葉系幹細胞の時間・空間的解析—肝臓内ニッチの探索	高原 照美	内科学(第三)	1,900,000 円	日本学術振興会
8	認知症による全身麻酔薬の修飾作用の解明および安全な麻酔法の確立	佐々木 利佳	麻酔科学	500,000 円	日本学術振興会
9	豊かな環境における中枢神経新生を介した慢性疼痛に対する治療戦略	山崎 光章	麻酔科学	1,900,000 円	日本学術振興会
10	救急外来トリアージ基準確立のための情報収集システム構築に関する研究	若杉 雅浩	危機管理医学	1,000,000 円	日本学術振興会
11	刺激応答性発現制御システムの開発と前立腺癌治療への応用	森井 章裕	腎泌尿器科学	1,600,000 円	日本学術振興会
12	細動波(f波)周波数解析によるガイド下心房細動手術の開発	深原 一晃	外科学(呼吸・循環・総)	800,000 円	日本学術振興会
13	温度感受性遺伝子導入動物カハール細胞を用いた消化管間質腫瘍の悪性化機序	杉山 敏郎	内科学(第三)	3,000,000 円	日本学術振興会
14	脊椎靭帯骨化症における骨化形成のメカニズムの解明と治療	川口 善治	整形外科・運動器病学	700,000 円	日本学術振興会
15	妊娠高血圧症候群とオートファジー—新視点から絨毛外栄養膜細胞浸潤不全を解明する	中島 彰俊	産科婦人科学	1,700,000 円	日本学術振興会
16	ヒト正常胆嚢上皮と胆嚢癌におけるアクアポリンの役割解析	塚田 一博	外科学(消化器・腫瘍・総)	1,000,000 円	日本学術振興会
17	リンパ管新生評価系並びにリンパ節転移モデルを用いたリンパ管新生機序解明と治療応用	土岐 善紀	第一外科	1,000,000 円	日本学術振興会
18	メタボリックシンドロームにおける和漢薬の血管内皮機能保護作用に関する研究	嶋田 豊	和漢診療学	1,100,000 円	日本学術振興会
19	ヒト上皮培養細胞を用いた多能性幹細胞の樹立と組織構築の研究	嶋田 裕	外科学(消化器・腫瘍・総)	1,300,000 円	日本学術振興会
20	次世代質量分析と網羅的遺伝子発現解析による消化器癌の新規バイオマーカーの研究	嶋田 裕	外科学(消化器・腫瘍・総)	4,700,000 円	日本学術振興会
21	非アルコール性脂肪性肝障害に対する桂枝茯苓丸の効果	藤本 誠	和漢診療学	500,000 円	日本学術振興会
22	脂肪組織マクロファージとインターロイキン10による代謝調節に関する研究	薄井 勲	内科学(第一)	700,000 円	日本学術振興会
23	前立腺癌におけるHGF関連因子の発現と浸潤・増殖機構に及ぼす影響	布施 秀樹	腎泌尿器科学	900,000 円	日本学術振興会
24	BMP受容体変異を伴う細胞増殖性疾患の分子基盤の解明	別府 秀幸	臨床分子病態検査学	2,300,000 円	日本学術振興会
25	転写因子NF- κ Bハイスクリーン検査システム構築による救急医療への応用	北島 勲	臨床分子病態検査学	1,500,000 円	日本学術振興会
26	クロマチンリモデリング分子ATRX遺伝子改変マウスによる脳発達障害の分子病態解明	北島 勲	臨床分子病態検査学	4,300,000 円	日本学術振興会
27	口腔癌顎骨浸潤の免疫学的機序の解明と新規治療戦略の開発	野口 誠	歯科口腔外科学	1,700,000 円	日本学術振興会
28	経脈絡膜上腔ドラッグデリバリーの開発	林 篤志	眼科学	1,000,000 円	日本学術振興会
29	統合失調症におけるミラーニューロンシステムの構造・機能解析と早期補助診断への応用	鈴木 道雄	神経精神医学	600,000 円	日本学術振興会
30	アルツハイマー病による全身麻酔薬作用の修飾—疾病モデルマウス海馬における検討—	廣田 弘毅	麻酔科学	700,000 円	日本学術振興会
31	羊水中病原微生物の迅速同定と迅速薬剤感受性試験を用いた産科診療システムの構築	齋藤 滋	産科婦人科学	1,000,000 円	日本学術振興会
32	免疫寛容という立場から正常妊娠、異常妊娠を再考する	齋藤 滋	産科婦人科学	4,600,000 円	日本学術振興会
33	遠隔虚血プレコンディショニングによる深部静脈血栓症に対する戦略的予防法の確立	釈永 清志	麻酔科	900,000 円	日本学術振興会
34	迅速・簡便・安価な敗血症起因菌同定ITシステムの構築	仁井見 英樹	検査部	1,000,000 円	日本学術振興会
35	漢方薬による褥瘡治療の作用機序の解明	引網 宏彰	和漢診療科	900,000 円	日本学術振興会
36	抗体産生不全症における自然免疫系の異常に関する研究	金兼 弘和	小児科	700,000 円	日本学術振興会

37	必須多価不飽和脂肪酸を指標にした認知症に伴う周辺症状の発症予測の試み	松岡 理	神経精神科	1,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
38	新規遺伝子解析法を用いた乳癌の治療効果予測に関する探索的研究	長田 拓哉	第二外科	1,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
39	オートファジー誘導による悪性グリオーマ治療抵抗性克服の試み	栗本 昌紀	脳神経外科	500,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
40	早産例における分娩監視ならびに羊水所見からみた適切な分娩時期の決定	米田 哲	産科婦人科	500,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
41	SIRT1活性化によるインスリン抵抗性改善機構に関する研究	小清水 由紀子	第一内科	600,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
42	表皮角化関連分子の系統的解析とヒト疾患への応用	牧野 輝彦	皮膚科学	900,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
43	脂肪組織マクロファージとインスリン感受性の関与についての研究	藤坂 志帆	第一内科	1,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
44	川崎病急性期における自然免疫応答による炎症の制御機構の解明	齋藤 和由	周産母子センター	800,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
45	急性膝炎に伴う難治性疼痛に対する新規治療ターゲットの研究	大石 美緒子	麻酔科	900,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
46	口唇口蓋裂の一貫治療への患児由来羊膜および羊膜間葉系細胞の応用に関する基礎的研究	津野 宏彰	歯科口腔外科	900,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
47	ハンガー反射を利用した頭位異常の治療の研究	旭 雄士	脳神経外科	900,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
48	胎児抗原特異的制御性T細胞の重要性	島 友子	産科婦人科学	2,100,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
49	未成熟ミエロイド系細胞を標的とした口腔癌に対する新たな免疫療法の開発	富原 圭	歯科口腔外科	1,300,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
50	敗血症病態がベースメーカー細胞に及ぼす影響一遺伝子による不整脈治療戦略の構築一	畠山 登	手術部	1,300,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
51	視床下部RAS系の破綻が中枢ミトコンドリア障害を介したエネルギー代謝に及ぼす影響	和田 努	病態制御薬理学	1,300,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
52	中枢のホスファターゼ阻害による妊娠糖尿病および仔の代謝異常の治療法の開発	笹岡 利安	病態制御薬理学	1,600,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
53	骨軟部肉腫に対する分化誘導療法の開発	金森 昌彦	人間科学1	800,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
54	II型コラーゲン異常による骨系統疾患をモデルとした変形性関節症の病態解析	松井 好人	解剖学	1,200,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
55	非アルコール性脂肪性肝炎と原発性胆汁性肝硬変の発症過程における類似性	常山 幸一	病理診断学	700,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
56	血小板由来増殖因子の神経細胞死抑制およびシナプス形成促進作用に対する役割の検討	石井 陽子	病態・病理学	1,400,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合には「委」に「レ」をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題 命	発表者氏名	所 属 部 門
1	Adv. Biosci. Biotech., 2: 304-310, 2011.	Purification of enzymatically inactive peptidylarginine deiminase type 6 from mouse ovary that reveals heameric structure different from other dimeric isoforms.	多喜 博文	第一内科
2	Endocrinology, 152(5): 1789-1799, 2011.	Telmisartan improves insulin resistance and modulates adipose tissue macrophage polarization in High-fat-fed mice.	藤坂 志帆	第一内科
3	Intern. Med., 50(24): 2975-2981, 2011.	A history of ischemic heart disease is a common cause of wheezing in the elderly of a Japanese local community.	猪又 峰彦	第一内科
4	日本胸部臨床, 70(9):955-960, 2011.	ゲフィチニブによる薬剤性肺障害との鑑別を要したニューモシスチス肺炎の1例	猪又 峰彦	第一内科
5	学園の臨床研究, 10: 1-6,	医学生におけるアレルギー疾患の罹患状況	松井 祥子	第一内科
6	Am. J. Physiol. Endocrinol. Metab., 300: E1112-E1123.	Both type I and II IFN induces insulin resistance by inducing different isoform of SOCS expression in 3T3-L1 adipocytes.	和田 努	第一内科
7	Europace, 13: 1195-1200, 2011.	Early repolarization in Wolff-Parkinson-White syndrome: prevalence and clinical significance.	水牧 功一	第二内科
8	Cardiovasc. Res., 89: 825-833, 2011.	The role of pulmonary veins vs. autonomic ganglia in different experimental substrates of canine atrial fibrillation.	西田 邦洋	第二内科
9	Circulation, 123: 137-146, 2011.	Mechanisms of atrial tachyarrhythmias associated with coronary artery occlusion in a chronic canine model.	西田 邦洋	第二内科
10	Am. J. Physiol. Heart Circ. Physiol., 300: H2214-2220, 2011.	Transient hypercapnic stress causes exaggerated and prolonged elevation of cardiac and renal interstitial norepinephrine levels in conscious hypertensive rats.	傍島 光男	第二内科
11	Am. J. Physiol. Heart Circ. Physiol., 301: H548-554, 2011.	Repeated sauna therapy attenuates ventricular remodeling after myocardial infarction in rats by increasing coronary vascularity of noninfarcted myocardium.	傍島 光男	第二内科
12	Intern. Med., 50: 1099-1103, 2011.	Esophageal small-cell carcinoma with syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone.	安藤 孝将	第三内科
13	Int. J. Hematol., 93: 118-122, 2011.	Repeated donor lymphocyte infusions overcome a myeloid sarcoma of the stomach resulting from a relapse of acute myeloid leukemia after allogeneic cell transplantation in long-term survival of more than 10 years.	和田 暁法	第三内科
14	J. Physiology, 589: 3471-3482, 2011.	Transient receptor potential vanilloid 4 (TRPV4)-dependent calcium influx and ATP release in mouse esophageal keratinocytes.	三原 弘	第三内科
15	J. Am. Acad. Dermatol., 65: 232-233, 2011.	An evaluation of the skin atrophy associated with linear atrophoderma of Moulin by ultrasound imaging.	乗杉 理	皮膚科
16	皮膚病診療, 33(9):941-944, 2011.	Blaschko線上に腫瘍を生じたfamilial cylindromatosis	古市 恵	皮膚科
17	皮膚科の臨床, 53(7):1043-1046, 2011.	フェロケラターゼ遺伝子解析により診断した骨髄性プロトポルフィリン症	古市 恵	皮膚科
18	Science of Kampo Med, 35: 364-369, 2011.	桂枝茯苓丸のアトピー性皮膚炎に対する有効性の検討—瘀血病態および苔癬化病変の有無による効果の比較—	古市 恵	皮膚科
19	J. Biomed. Mater Res. B. Apple Biomater, 98: 110-113, 2011.	Synthesis and characterization of high-quality skin-cooling sheets containing thermosensitive poly(N-isopropylacrylamid).	竹上 與志昌	皮膚科
20	Br. J. Dermatol., 165: 213-214, 2011.	An ultrastructural examination in a blistering lesion of mycosis fungoides bullosa.	上田 智恵子	皮膚科
21	Int. J. Hematol., 93: 760-764, 2011.	Autoimmune lymphoproliferative syndrome mimicking chronic active Epstein-Barr virus infection.	野村 恵子	小児科
22	日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌, 9:30-35, 2011.	小児喘息コントロールテスト(Childhood Asthma Control Test: C-ACT)の有用性と問題点	板澤 寿子	小児科
23	Pediatr. Int., 53: 192-198, 2011.	Association of overweight with asthma symptoms in Japanese school children.	岡部 美恵	小児科
24	Psychiatry Res., 186: 23-27, 2011.	Membrane fatty acid levels as a predictor of treatment response in schizophrenia.	住吉 太幹	神経精神科
25	Prog. Neuropsychopharmacol. Biol. Psychiatry, 35: 177-183, 2011.	Longitudinal volume changes of the pituitary gland in patients with schizotypal disorder and first-episode schizophrenia.	高橋 努	神経精神科
26	Prog. Neuropsychopharmacol. Biol. Psychiatry, 35: 1957-1964, 2011.	A follow-up MRI study of the fusiform gyrus and middle and inferior temporal gyri in schizophrenia spectrum.	高橋 努	神経精神科
27	Neuroradiology, 53: 153-158, 2011.	Flow-sensitive alternating inversion recovery (fair) imaging for retrograde cortical venous drainage related to intracranial dural arteriovenous fistula.	野口 京	放射線科
28	Esophagus, 8: 259-266, 2011.	Usefulness of blood supply visualization by indocyanine green fluorescence for reconstruction during esophagectomy.	嶋田 裕	第二外科
29	脳神経外科ジャーナル, 20:12-19, 2011.	わが国における硬膜動静脈瘻の治療の現状	桑山 直也	脳神経外科
30	Neurol. Med. Chir. (Tokyo), 51: 160-163, 2011.	Unilateral anterior interhemispheric approach for anterior communicating artery aneurysms with horizontal head position.	林 央周	脳神経外科

31	J. Neurosurg., 115: 1147-1157, 2011.	Nationwide investigation of the current status of therapeutic neuroendoscopy for ventricular and paraventricular tumors in	林 央周	脳神経外科
32	Stereotact. Funct. Neurosurg., 89: 173-177, 2011.	Bilateral subthalamic deep brain stimulation for camptocormia associated with Parkinson's disease.	旭 雄士	脳神経外科
33	日本シミュレーション外科学会誌, 19:9-12, 2011.	穿頭・脳室穿刺シミュレーションモデルの開発	旭 雄士	脳神経外科
34	Am. J. Emerg. Med., 29: 196-202, 2011.	A simple and useful coma scale for patients with neurologic emergencies: the Emergency Coma Scale.	高橋 千晶	脳神経外科
35	Spine J., 11: 927-932, 2011.	Evaluation of ossification of the posterior longitudinal ligament by three-dimensional computed tomography and magnetic resonance imaging.	川口 善治	整形外科
36	中部整災誌, 54(4):863-864, 2011.	脊椎手術後の疼痛に対するプレガバリンの効果	川口 善治	整形外科
37	中部整災誌, 54(5):1087-1088, 2011.	リウマチ頸椎に対する後頭骨頸胸椎間固定術の成績	川口 善治	整形外科
38	中部整災誌, 54(3):533-534, 2011.	脊椎手術における術野感染の予防対策	川口 善治	整形外科
39	Hand Surgery, 16(3): 239-244, 2011.	Continuous peripheral nerve block in forearm for severe hand trauma.	長田 龍介	整形外科
40	Oncol. Rep., 26: 711-715, 2011.	Extraskelatal Ewing sarcoma of the thoracic epidural space.	安田 剛敏	整形外科
41	中部整災誌, 54:803-804.	広範な脊椎強直に合併した脊椎脊髄損傷の治療経験	安田 剛敏	整形外科
42	別冊整形外科, 60: 118-122, 2011.	骨粗鬆性椎体偽関節による遅発性神経麻痺の病態と後方インストゥルメント併用の椎体形成術の手術的治療	安田 剛敏	整形外科
43	Spine J., 11(suppl1): 37, 2011.	Pathogenetic factors affecting delayed neurologic paralysis in patients with osteoporotic vertebral fractures.	中野 正人	整形外科
44	中部整災誌, 54(5):991-992, 2011.	化膿性肩関節炎に対する鏡視下デブリードマンと持続灌流	杉森 一仁	整形外科
45	中部整災誌, 54(5):1169-70, 2011.	治療に難渋した化膿性足関節炎に対して局所骨移植を併用して足関節固定術を行った1例	元村 拓	整形外科
46	Int. J. Hyperthermia, 27: 53-62, 2011.	Hyperthermia enhances the effect of β -lapachone to cause γ H2AX formations and cell death in human osteosarcoma cells.	堀 岳史	整形外科
47	中部整災誌, 54:983-984.	高齢者悪性軟部肉腫の治療成績—遠隔転移の有無による検討—	堀 岳史	整形外科
48	中部整災誌, 54:1243-1244, 2011.	椎弓切除後に棘突起再建が可能なデバイスの開発とその臨床応用(第2報)	金森 昌彦	整形外科
49	J. Spine Res., 2: 268-271, 2011.	The validity study of Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ) for patients with leg symptom associated with lumbar disc herniation.	金森 昌彦	整形外科
50	J. Reprod. Immunol., 90: 91-95, 2011.	Future directions of studies for recurrent miscarriage associated with immune etiologies.	齋藤 滋	産科婦人科
51	日本産婦人科・新生児血液学会誌, 21:9-13, 2011.	血栓性素因のある不育症に対するヘパリンカルシウム自己皮下注射の安全性についての検討	齋藤 滋	産科婦人科
52	日本産婦人科・新生児血液学会誌, 20:23-28, 2011.	当科における婦人科術後深部静脈血栓症・肺塞栓症の危険因子と予防対策の現状	日高 隆雄	産科婦人科
53	日本医師会雑誌, 140:1281-1284, 2011.	ワークライフバランスの取れる労働環境と意識改革が、女性医師の産後復帰率を改善する	米田 徳子	産科婦人科
54	J. Obstet. Gynecol. Res., 37: 861-866, 2011.	Prediction of exact delivery time in patients with preterm labor and intact membranes at admission by amniotic fluid interleukin-8 level and preterm labor index.	米田 哲	産科婦人科
55	J. Obstet. Gynecol. Res., 37: 1447-1454, 2011.	Comparison of risk factors for major obstetric complications between Western countries and Japan: A case-cohort study.	塩崎 有宏	産科婦人科
56	J. Reprod. Immunol., 89: 133-139, 2011.	Impact of fetal sex on pregnancy-induced hypertension/pre-eclampsia in Japan.	塩崎 有宏	産科婦人科
57	日本女性医学学会雑誌, 19:31-36, 2011.	閉経後骨粗鬆症に対するHRT長期施行後の動向と問題点	長谷川 徹	産科婦人科
58	Case Report Ophthalmol, 2(2): 149-54, 2011.	Intraoperative changes in idiopathic macular holes by spectral-domain optical coherence tomography.	林 篤志	眼科
59	Jpn J Ophthalmol, 55(6): 625-31, 2011.	Intravitreal injection of bevacizumab combined with macular grid laser photocoagulation for macular edema in branch retinal vein	林 篤志	眼科
60	日本眼科学会雑誌, 114(4): 347-355, 2010.	網膜中心静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫に対するbevacizumab硝子体内投与の短期効果	林 篤志	眼科
61	眼科臨床紀要, 4(5):442-447, 2011.	小眼球症の小児2症例の黄斑部OCT所見	三原 美晴	眼科
62	第64回日本臨床眼科学会講演集, 65(4):505-508, 2011.	黄斑円孔の術後うつ伏せ期間の違いによる手術成績の検討	宮腰 晃央	眼科
63	Exp Eye Res, 91(2): 162-70, 2010.	Blockade of interleukin-6 signaling suppresses experimental autoimmune uveoretinitis by the inhibition of inflammatory Th17 responses.	法貴 哲	眼科
64	臨床眼科, 65(4):481-485, 2011.	滲出型加齢黄斑変性に対するラニビズマブ硝子体投与併用光線力学療法の6ヵ月経過	中村 友子	眼科
65	Acta Otolaryngol (Stockh), 131: 1178-1186, 2011.	Intermittent pressure therapy of intractable Meniere's disease and delayed endolymphatic hydrops using the transtympanic membrane massage device: A preliminary report.	渡邊 行雄	耳鼻咽喉科

66	Acta Otolaryngol (Stockh), 131: 277-283, 2011.	Long-term effects of the Meniett device in Japanese patients with Meniere's disease and delayed endolymphatic hydrops reported by the Middle Ear Pressure Treatment Research Group of Japan.	將積 日出夫	耳鼻咽喉科
67	Laryngoscope, 124: 1953-1957, 2011.	Effect of hyperdry amniotic membrane patches attached over the bony surface of mastoid cavities in canal wall down tympanoplasty.	將積 日出夫	耳鼻咽喉科
68	Case Reports in Immunology, 2011: Article ID 236079, 2011.	An IgG4-related salivary gland disorder: A case series presenting with a different clinical setting.	石田 正幸	耳鼻咽喉科
69	Case Reports in Otolaryngology, 2011: Article ID 967896, 2011.	Solitary neurofibroma of the floor of the mouth: A case report.	丸山 元祥	耳鼻咽喉科
70	Brain Topogr., 24: 114-126, 2011.	Cortical hemodynamic responses to intravenous thiamine propyldisulphide administration detected by multichannel near infrared spectroscopy (NIRS) system.	高倉 大匡	耳鼻咽喉科
71	Report Med Biol. 10: 153-159, 2011.	Hematospermia: etiology, diagnosis, and treatment.	布施 秀樹	泌尿器科
72	J. Men's Health., 8: S15-S18, 2011.	Herbal medicine in Japan.	小宮 頌	泌尿器科
73	Surg. Laparosc. Endosc. Percutan. Tech., 21: 159-162, 2011.	Surg. Laparosc. Endosc. Percutan. Tech., 21: 159-162, 2011.	野崎 哲夫	泌尿器科
74	J. Laparoendosc. Adv. Surg. Tech. A., 21: 629-633, 2011.	Retroperitoneoscopic nephrectomy for symptomatic hydronephrosis using a SAND balloon catheter.	野崎 哲夫	泌尿器科
75	Surg. Laparosc. Endosc. Percutan. Tech., 21: 152-155, 2011.	Laparoscopic management of urachal mucinous borderline tumor associated with pseudomyxoma peritonei.	野崎 哲夫	泌尿器科
76	Curr. Urol., 5: 94-98, 2011.	A novel technique of the retroperitoneoscopic radical nephrectomy for a patient undergoing continuous ambulatory peritoneal dialysis to preserve the peritoneal boundary.	野崎 哲夫	泌尿器科
77	Nishinohon J. Urol. 73: 181-184, 2011.	Course and treatment results of parapelvic renal cyst.	野崎 哲夫	泌尿器科
78	Toyama Medical Journal, 22: 14-18, 2011.	The usefulness of magnetic resonance urography.	野崎 哲夫	泌尿器科
79	泌尿器外科, 24: 1181-1183, 2011.	大きな嚢胞性腎腫瘍や水腎症を鏡視下に摘出する場合のトラブルシューティング	野崎 哲夫	泌尿器科
80	日本老年泌尿器科学会誌, 24: 100, 2011.	高齢者における腎摘出術後の腎機能に関する臨床的検討	藤内 靖喜	泌尿器科
81	日本性機能学会雑誌, 25: 243-247, 2010.	日本語版Erection Hardness Scoreの有用性に関する検討	渡部 明彦	泌尿器科
82	泌尿器外科, 24: 217-221, 2011.	当科における進行性尿路上皮癌に対する化学療法の治療成績	森井 章裕	泌尿器科
83	Urology, 78: S293-S294, 2011.	Expression of Hepatocyte Growth Factor Activator Inhibitor Type 1 (HAI-1) in Prostate Cancer.	保田 賢司	泌尿器科
84	泌尿器外科, 24: 1329-1331, 2011.	ホルモン不応性前立腺癌に対するドセタキセル療法の治療成績	一松 啓介	泌尿器科
85	Synapse, 65: 608-616, 2011.	Upregulation of bradykinin receptors is implicated in the pain associated with caerulein-induced acute pancreatitis.	竹村 佳記	麻酔科
86	Synapse, 65: 668-676, 2011.	Effects of gabapentin on brain hyperactivity related to pain and sleep disturbance under a neuropathic pain-like state using fMRI and brain wave analysis.	竹村 佳記	麻酔科
87	Jpn J Rehabil Med., 48: 33-38, 2011.	温泉・温熱の先端科学をリハビリテーションへ 温熱療法の生物学的効果 癌治療への応用 遺伝子発現への影響	和田 重人	歯科口腔外科
88	Aging Cell., 11: 128-138, 2012.	Aging-associated B7-DC(+) B cells enhance anti-tumor immunity via Th1 and Th17 induction.	富原 圭	歯科口腔外科
89	Evid. Based Complement. Alternat. Med., 2011: Article ID 194046, 2011.	A Chinese herbal medicine, tokishakuyakusan, reduces the worsening of impairments and independence after stroke: A 1-year randomized, controlled trial.	後藤 博三	漢方内科
90	Hippocampus, 21: 678-687, 2011.	Reduced expression of the ATRX gene, a chromatin-remodeling factor, causes hippocampal dysfunction in Mice.	野上 達也	漢方内科
91	脳卒中, 33: 67-73, 2011.	頸部放射線治療後の頸動脈病変. 頸部血管超音波検査による11症例の検討	田口 芳治	神経内科
92	脳卒中, 33(6): 551-558, 2011.	非弁膜症性心房細動に起因した心原性脳塞栓症発症時の抗血栓療法の状態に関する検討	田口 芳治	神経内科
93	J. Clin. Neurol., 7: 197-202, 2011.	Predictors of Poor Outcome in Patients with Acute Cerebral Infarction.	道具 伸浩	神経内科
94	J. Clin. Microbiol., 49: 3316-3320, 2011.	A novel "eukaryote-made" thermostable DNA polymerase which is free from bacterial DNA contamination.	仁井見 英樹	検査部
95	ISRN Anesthesiology, doi: 10.5402/2011/837937, 2011.	Dementia enhances inhibitory actions of general anesthetics in hippocampal synaptic transmission.	山田 正名	手術部
96	ICUとCCU, 34(12): 1035-1041, 2010.	医学部学生に対する疑似ICUを使った集中治療医学の臨床教育	有嶋 拓郎	救急科
97	総合臨床, 66: 847-851, 2011.	チアノーゼ. -診断の指針・治療の指針-	有嶋 拓郎	救急科
98	レジデントノート, 13: 215-220, 2011.	脳卒中での対応. 救急・集中治療での重症者管理	有嶋 拓郎	救急科
99	新医療, 38(4): 100-103, 2011.	長期署名フォーマット(PaDES)を採用した院内紙文書電子保存システム	中川 肇	経営企画情報部
100	Scientific World Journal, 11: 2124-2135, 2011.	Advantages and disadvantages of hyperbaric oxygen treatment in mice with obesity hyperlipidemia and steatohepatitis.	常山 幸一	病理部
101	病院, 70(9): 676-679, 2011.	地域と大学が協働で取り組んだ人材育成—富山県南砺市—	山城 清二	総合診療部
102	JIM, 21(8): 670-677, 2011.	病院総合医のこれから	山城 清二	総合診療部

103	医学教育, 42:351-356, 2011.	医学生の臨床推論を高めるための教育プログラム開発—スクリプトを用いた疾患想起トレーニングの試み—	北 啓一郎	総合診療部
104	Int. Orthop., 35(1): 25-29, 2011.	Activities of daily living after total hip arthroplasty. Is a 32-mm femoral head superior to a 26-mm head for improving daily	松下 功	リハビリテーション部

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 井上 博
管理担当者氏名	経営企画情報部長 中川 肇 放射線部長 瀬戸 光 薬剤部長 足立 伊佐雄 看護部長 山口 千鶴子 病院総務グループ長 丸田 由男 医事グループ長 菊 映子

	保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院治療計画書	医事グループ、薬剤部、看護部、放射線部	カルテ等(電子カルテを含む。)の病歴資料は、1患者1ファイル方式による永久一元番号で分類し、外来カルテは最終受診日から8年以上、入院カルテは退院日から10年以上の保存を原則としている。 また、エックス線写真は、1患者1ファイル方式で、最終使用日から8年間の保存を原則としている。 これらは、コンピュータによる集中管理を行っている。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者を明らかにする帳簿	医薬系事務部人事・職員支援チーム	
	高度医療の提供の実績	医事グループ	
	高度医療技術の開発及び評価の実績	病院総務グループ病院総務チーム	
	高度医療の研修の実績	病院総務グループ臨床研修チーム	
	閲覧実績	病院総務グループ病院総務チーム	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事グループ	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事グループ、薬剤部	
	規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	病院総務グループ医療安全支援チーム
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	病院総務グループ医療安全支援チーム
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	病院総務グループ医療安全支援チーム
		専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	病院総務グループ医療安全支援チーム
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	病院総務グループ医療安全支援チーム
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況		
	院内感染のための指針の策定状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	院内感染のための委員会の開催状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部 病院総務グループ長 丸田 由男
閲覧担当者氏名	病院事務部 病院総務グループ 病院総務チーム 本江 隆典
閲覧の求めに応じる場所	病院総務グループ

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

○紹介患者に対する医療の提供の実績

紹介率	75.3%	算定期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数	8,688人	
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	5,417人	
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,043人	
	D : 初診の患者の数	14,693人	

(注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院における安全管理に関する基本的考え方 2. 医療安全の組織と体制に関する基本事項 3. 安全に係る研修に関する基本方針 4. 医療事故発生時の対応に関する基本指針 5. 医療従事者と患者等との間の情報の共有に関する基本方針 6. 患者等からの相談への対応に関する基本方針 7. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理方針の策定及び推進に関すること。 2. インシデントの報告に関すること。 3. 医療安全管理の教育及び研修に関すること。 4. 医療安全管理対策の検討及び医療安全管理マニュアル作成に関すること。 5. 医療の質向上への取り組みに関すること。 6. 重大なインシデントに係る調査及び対策に関すること。 7. 医療事故対応の意思決定・報告・広報に関すること。 8. 医療事故に係る当事者双方の対応に関すること。 9. その他医療安全管理に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>インシデント事例検討会、医療安全推進のための特別講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションエラーを防ぐツールとしてのSBAR ・患者・医療者間の信頼関係構築のために ・持参薬によるトラブルの現状とその対策について ・人と向き合う医療安全 ・エビデンスに基づいたチームトレーニング ・根本原因を分析しよう 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全管理室の専任スタッフが、インシデント報告書を毎日チェックし、事前に3b以上の報告などの重要事例を検証し、医療安全管理室長及び医療安全管理室ミーティングに報告する。必要に応じ、室長が特別事例検討会を開催し、事実確認のうえ、警察への届出及び医療事故調査委員会の是非を検討し、病院長及び医療安全管理委員会に報告する。 2 医療安全管理室ミーティングにおいて、インシデント報告のうち、院内全体に関わる内容を中心に、体系的な問題点等を検討し、改善策を医療安全管理委員会の承認を得て、全部署に周知する。 	

- 3 各部署において、当該部署のセーフティマネージャーが中心となって、事故発生の背景や内容、防止対策について、カンファレンス等でRCAを用いて検討する。
- 4 インシデント事例検討会において、当該期間に発生した事例から2例を選択し、事例の概要説明及び再発防止策を公表後、質疑応答形式でディスカッションを行う。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 有(2名) 無

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 有(1名) 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 有 無

・所属職員：専任(2)名 兼任(22)名

・活動の主な内容

1. インシデントの収集・調査・分析、発生要因の究明及び防止対策に関すること。
2. 医療事故防止対策の周知徹底に関すること。
3. 医療安全管理に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること。
4. 医療安全管理に係る業務改善の提言・指導に関すること。
5. インシデントの事例・対策等の情報収集に関すること。
6. 医療安全管理に係る教育・研修・啓蒙に関すること。
7. 医療安全管理マニュアル遵守の確認と成果の検証に関すること。
8. 医療安全管理委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること。
9. 特別事例検討会開催の是非に関すること。
10. セーフティマネージャー会議に関すること。
11. 医療事故情報の管理に関すること。
12. インフォームドコンセントの適正運用に関すること。
13. 適正な診療録のあり方の検討及び情報公開への対応に関すること。
14. その他医療の安全に関すること。

⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 有 無

院内感染のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院における感染対策に関する基本的な考え方 2. 感染対策の組織と体制に関する基本事項 3. 感染対策に係る研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 病院感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する指針の閲覧に関する基本方針 7. その他感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防対策の確立に関すること。 2. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 3. 感染予防の啓発及び教育に関すること。 4. 感染に係る事故等の疫学調査及び事後措置に関すること。 5. 感染予防対策の評価及び改善に関すること。 6. 感染予防対策に係る情報の収集に関すること。 7. その他感染予防に関すること。 	
③ 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・研修の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内感染対策講習会 ・針刺し事故対策 ・感染対策を実践するための最新情報 ・アウトブレイク対応の実際 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染サーベイランスを実施し、データ分析・評価し、感染予防対策の見直しや看護ケアの改善につなげる。 2. 院内感染情報レポートを活用し、職員への情報提供を行う。 3. 院内ラウンドを通して、感染防止技術に関する確認・指導を行う。 	

医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・活動の主な内容 1. 医薬品の安全使用のために 2. 処方箋作成、発行の厳格化について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	年 1 回
・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・業務の主な内容 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項(麻薬等の管理方法等) 3. 患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 6. 他施設(病院等、薬局等)との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 1 業者からの緊急連絡及び医薬品医療機器情報提供ホームページ等から情報を収集し、必要な医薬品情報を、薬事ニュースの配付及び電子掲示板等で情報提供を行う。 2 副作用による健康被害情報を病院長に報告のうえ、厚生労働省に報告する。	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 8 回
※定期研修1回、新人研修2回、個別研修15回	
<p>・活動の主な内容</p> <p>次の医療機器に関する安全使用のための研修を実施。</p> <p>人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置(AEDを含む。)、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	年 2623 回
※特定6品目年1回、特定2品目年2回、随時日常保守点検	
<p>・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・保守点検の主な内容</p> <p>使用者がチェックリストに基づく使用前、使用中、使用後の点検を基本とする。更に使用部署若しくは、医療機器管理センターで、器機の使用状況、程度に応じ、使用毎や年1回から4回程度の詳細点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p>	
<p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>病院総合情報システムの掲示板で、でんしかされた添付文書等の掲示や、医療安全管理委員会からセーフティマネージャー経由で、電子メールによる通知を行っている。また、不具合等に関する情報は、病院長及び管理者等に報告のうえ、厚生労働省に報告している。</p>	